

高密度は種栽培における 栽培管理技術の向上

活動対象:もち米省力化研究会5戸

令和2年度から取り組まれている高密度は種栽培(高密度播種短期育苗(以下“高密短”)・密播中苗)では、初期生育向上に向けた健苗育成が課題である。そこで、「もち米省力化研究会」5戸を対象に、研修会や育苗巡回による技術支援を行った。
その結果、全戸で苗質目標を達成できた。

1 課題設定の背景

名寄市

- 日本一のもち米作付面積:3,143ha
- 水稲作付農家戸数の減少・作付規模の拡大

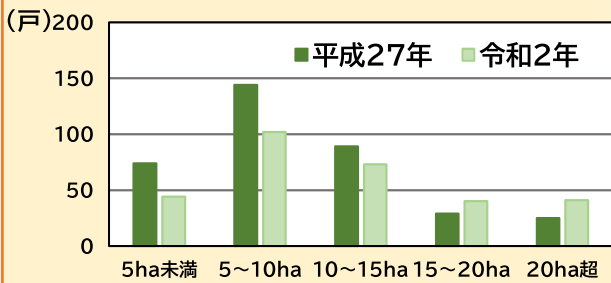


図 規模別水稲作付戸数の推移

→ 省力化栽培技術の
「高密度は種栽培」を導入

令和2~3年の実態調査より、苗質が基準値より劣るほ場で初期生育が不良

適正な育苗管理による
~苗質目標の達成~

区分	草丈 (cm)	葉数 (枚)	乾物重 (g/100本)
密播中苗	10~12	2.6以上	1.6以上
高密短	10~12	1.8以上	1.0以上

2 活動の経過

育苗巡回の実施

- 各会員の生育状況を確認
- 改善策の提案

生育の実態調査

- 苗質・生育・収量調査
- FAX・SNSで結果共有



ハウス内温度
の実態調査

順調に生育
しているか



SNSで共有

研修会の開催

- 現地研修会・冬期研修会の開催
- 調査結果の報告
- 管理技術の提案



苗質が重要
なんだね

栽培管理について意見交換

成熟期にも影響
しているね



- 試験場と連携し、会員ごとに栽培管理の確認・支援
- リアルタイムな情報共有

- 関係機関も含めた情報共有
- 次年度の栽培に向けた技術提案

3 活動の成果

～全戸で苗質目標を達成～

- 令和3年:2戸で草丈が不足
⇒初期茎数も少ない
- 令和4年:全戸で苗質目標達成
- は種量、育苗培土、追肥量を改善
- 育苗管理への意識向上

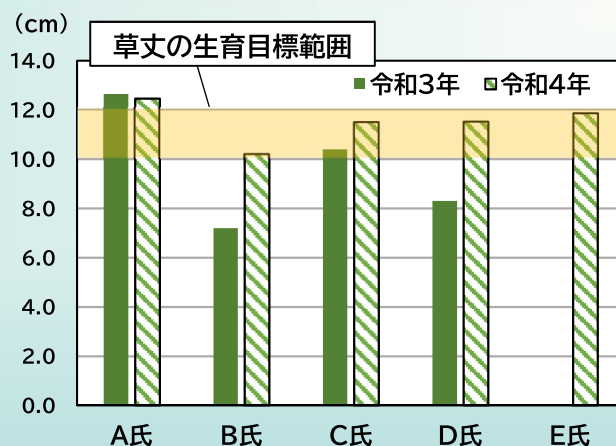


図 苗質(草丈)の推移

～老化苗対策の検討～

- 育苗後半の高温で苗が黄化
- 初期生育は停滞

移植時の
黄化苗



区分	簡易有効積算温度(°C)	育苗日数
試験場目標値	180~200	20日前後
3戸平均	300	21日

- ハウス内温度は目標値よりも高い
- 近年は育苗後半が高温傾向
⇒老化苗対策が重要
追肥を2回に分けるよう提案

- 実態把握より次年度の対策を提案・検討

～栽培管理意識の向上～

他の人の栽培が
参考になった

来年は茎数管理
に気をつけたい



- SNSの活用によりビジュアル的な情報共有が可能
- 研修会による結果報告・意見交換で初期生育向上の重要性の理解が深まった

4 今後の課題

健苗育成と初期生育向上に向けて

- 近年の気象傾向を考慮した育苗管理、本田管理の支援を継続
- 情報を蓄積、栽培マニュアルを作成

高密度は種栽培の安定生産に向けて

- 「もち米省力化研究会」、関係機関と連携した一体的な活動を推進

